

## 2. 報告事項

(1)平成20年度工事関係執行状況について(11月30日現在)

- ・建設課関係発注額 17件 3億6,907万5千円 (執行率95・1%)
- ・建設課以外発注額 19件 1億966万1千円 (執行率95・0%)

(2)平成20年度農産物の生産状況について(最終確定前)

- ・作付面積 3,499ha
- ・米の出荷実績 31万1,553俵
- 加工用 6,213俵
- 合計 31万7,766俵
- (前年対比4万1,197俵増)
- ・高品質米の出荷状況 19万2,701俵
- ・高品質米率 69・4% (前年対比50・9%増)

米以外の農産物の出荷量は小麦、そば、ミニトマトが前年より大きく伸びている。

(3)今後の学校給食費の考え方について

児童生徒の必要摂取カロリーを維持しながら、安全・安心な給食を安定的に提供でき

るよう創意工夫し、なおかつ献立の工夫改善や使用食材の変更等により、現行の給食費で「安全で美味しい給食」を継続する。

### ちよつとうれしい 出来事コーナー

今議会で国からの交付金2,459万1千円の活用について提案があり、学校施設の改善、耐震化に向けての診断や実施計画委託が予算化されました。この金額は、低迷する国内経済の活性化対策として昨年、国会決議された予算が「地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金」として交付されたもので、町では、指定されたメニューの中から住民要望や緊急性のあるものに配慮し予算化しました。これまで財源確保に苦慮し、なかなか進まなかった洋式トイレの増設や新十津川小学校と中学校の耐震化診断や設計業務に着手できたことは、学校で学ぶ子どもたちやその保護者にとってありがたいお年玉になったのではないかと思います。

(青田)

## 議員研修報告

### 市町村議会議員特別研修(地方行財政コース)

長谷川秀樹



場所 全国市町村国際文化研修所(滋賀県大津市)  
期間 平成20年10月20日から24日まで

議会の活性化を要素の一つとして、議員の資質向上を目的に昨年より様々な全国レベルの研修会に議会より派遣する取り組みが実施され、今回不祥私が5日間にわたる研修を通して貴重な体験をさせていただき、関係機関の皆さまに感謝申し上げます。

今回の研修は講義、事例紹介、質疑応答演習を通じて自治体の行財政に関する専門知識や最新の動向、自治体にお

ける具体的な対応例を理解するとともに、自らの自治体の課題や今後の行財政運営の方向性を考え、議会活動や政策立案に活用していただくという内容で、全国から40名の議会議員の参加であった。

「自治体財政の健全化」「自治体経営と行政評価」「地方分権改革の現状と今後の方向性」等々、大学教授や総務省担当課長による講義と、長野市と静岡県との取り組みが事例紹介となされ、それらを踏まえて最終日は、参加者を3つのグループに分けた形でそれぞれの課題や政策提案のグループ討議を行った。

私は、北大大学院の木幡洗教授を講師としたグループで、本町における課題その政策提言として、自主財源確保のための地域振興における農産物のブランド化と生活交通の確保のための「地域交通のあり方」の2点について発表した。

「入るを量りて出ざるを制

す」という財政の基本となる言葉があるが、夕張市の財政破綻に端を発し地方財政のあり方が取り沙汰されてきた。「自治体の健全化」について、政策研究大学院の井川博教授の講義の一部を紹介する。

自治体財政健全化のポイントとして①歳出の削減では、民間活力(手法)の導入に責任の確保②歳入の確保では、税源の涵養(地域の振興、企業誘致)受益者負担の適正化③自治体経営では、住民と行政の役割分担の明確化、確実な将来予測④職員意識改革では、トップのリーダーシップ、人事評価によるモラルアップ⑤住民の理解では、財政情報の開示・提供、信頼の確保と5つの項目で取り組むべき方向が示されました。

難しく堅苦しい講義はともかく、参加議員との交流を通じて様々な刺激を受け、姿勢の貧弱さや情報の貧困さを痛感させられ、参加自治体でも小さくて最も遠隔の地からの派遣でしたが、その寛大な計らいに感動いたし、モラルアップに繋がる意義の大きな研修でありました。